天草俚諺集

鶴田　功　著

はじめに

古くからことわざは、金言とか格言とも呼ばれ、人々の経験や処世の妙理を諭すことばとして、或は訓戒警句として、人々に語り継がれてきました。

天草には子供の教育や生活の知恵、農事や気象、自然界の事象などを巧みに捉えた表現や、風刺の利いた俚諺・言い伝えがたくさん残っています。

なるほどネと頷いたり、思わず失笑したくなるような楽し諺を集めてみました。

編者　鶴田　功　しるす

『金句集』文禄二年（一五九三）天草コレジョで印刷
※日本最初の活版印刷による書物

あ行

ああいゑばこう言う
人のことば尻を取ってああだこうだと難癖をつける

合縁奇縁　気が合う合わないも何かの因縁で不思議なものだ
〈**縁は異なもの**〉

あいが遠うなりゃ契りも薄い〈**去る者日々に疎し**〉
親しい間柄でも遠ざかると次第に交情が薄れる
②愛が冷めると約束事も薄らぐ　【間：愛】語呂合せ

挨拶にゃ銭金ゃ要らん（礼節）
挨拶を交わすのは簡単。誰にも気持ちよく挨拶しよう

逢いたいちゅうても こちゃ知らん　魚名【鮎・鯛・鯒】語呂合せ
当人どうしの約束事は相談に乗れない

相手のいない喧嘩はできん　相手になるから喧嘩にもなる

会うは別れの始めなり〈**生者必滅　会者定離**（えしゃじょうり）〉〔揚貴妃〕
会う者は必ず別れる運命にある

青田から飯になるまで水加減
稲の栽培にも米を炊くにも水加減が難しい（農事）

青田と我子褒めるは馬鹿のうち
青い稲の頃はすくすく育っていても、思わぬ干ばつや災害に遭うこと　があり、収穫してみないと予測ができない。
②我が子の自立も予測はできない。

青菜に塩〔女房気質〕　塩をかけるとしおれて元気が無くなる

青菜湯掻きは男に見すんな
極端に減る事を知らない男に無用な疑いを抱かせない

青は藍より出て藍より青し〈**出藍の誉れ**（ほまれ）〉〔荀子　勧学〕
青色の染料は藍からとるが、原料の藍より青い
②師匠より弟子が優れる　親より子が優れる

秋風と夫婦喧嘩は夜には凪ぐ　夜になると何故か穏やかになる

秋財布に春袋　【秋：空き】【春：張る】語呂合せ

秋鯖は嫁御に喰わすんな　美味しい　②寄生虫がいる

商いは牛の涎（よだれ）〔日本新永代蔵〕　急がず粘り強く交渉せよ

秋なすびは嫁御に喰わすんな　〔毛吹草〕
美味しい　②灰汁が多い　③種が少ない

秋の一日　千日に当る（農事）
収穫時の一日は貴重　農閑期の千日分に値する

秋の日は釣瓶落し　落日が早い（農事）

秋の夕焼け鎌を研げ　明日は晴天になる（気象）

悪妻は百年の不作〈**悪妻は六十年の不作**〉
悪妻は子孫に悪影響を及ぼし繁栄をもたらさない

あくしゃもんにもとりえ
役立たず者と言われていても人の役に立てる事がある

悪銭　身に付かず　不正に得た金は詰らぬことで使い果てる

上げ膳喰わぬは男の恥　女の気持ち、気づいてよ

朝雨に女の腕まくり　午後は晴れる（**気象**）

朝雨に傘要らず　午後は晴れる（気象）

朝雨には馬に鞍置け　（気象）

朝雷は　井手落とし　井手堰が落ちる程大雨が降る（気象）

朝雷には傘持つな　昼には晴れる（気象）

朝雷に川渡りするな　大雨の前兆（気象）

朝雷に戸を開くんな　大雨の前兆（気象）
朝霧（朝靄）は晴れ　午後は晴れる（気象）
朝曇り昼日照り　午後は晴れる（気象）
朝酒は女房を質に入れても飲め
　朝酒は何ものにも変えられないほど美味しい
朝鳶は雨、夕鳶は晴れ　朝から鳶を見る時は雨天
浅田で米取れ　深田で藁取れ　深田は藁の割に収量が少ない
朝茶は蹴るな　朝茶は良薬だから辞退するな　福が増す
朝茶はその日の難逃れ〈―七里帰っても飲め〉
朝露は晴れの前ぶれ　午後は晴れる（気象）
朝虹は雨　夕虹は晴れ　朝虹が掛かると雨（気象）
朝寝・朝酒・朝風呂好きの穀潰し
朝寝坊は八石の損〈早起きは三文の得〉
　早朝から仕事に励む者には得がある　富貴のもと
朝の一時や夜の三倍　朝の貴重な時間を無駄にするな
朝の茶柱は縁起の良か　福を招く　縁担ぎ
朝は朝星　夜は夜星　昼は梅干食うて働け
　朝早くから夜遅くまで勤勉に働け
朝曼羅ン立たん者にゃ銭貸すんな
朝飯喰わん者に銭貸すんな
　精力的に働けなくなったらおしまい　金貸す人もいない
朝ぼっとりの夕ばたばた
　朝はゆっくりしていると夕方に忙しくなる
朝靄昼日和　朝靄が深い時は晴天になる（気象）
朝焼けは雨、夕焼けは晴れ　朝焼けは雨夕焼けは晴天
足跡は残らんでも筆跡は残る
　文章にしたものは残るから責任が伴う
明日のことは明日〈明日は明日の風が吹く〉　取り越し苦労
明日のことは分からない〈一寸先は闇〉　未来は予測できない
明日の百より今日の五十〈元旦の百より暮れの五十〉
　少なくとも現実に受け取るほうが良い
味は塩にあり　味付けの秘訣は塩加減だ
足元見てつけこむ　人の弱みに付け込み無理を押しつける
当った者が　ふ(運)の悪か　災難は思わず降り掛かる
当たって砕けろ　何事も挑戦することが簡要
頭隠して　尻隠さず〔狭客伝〕〔雉の隠れ〕〔源平盛衰記〕
　欠点は全部隠すことはできない　露見すればむしろ滑稽
頭が廻らにゃ尾も廻らん〈頭が動けば尾も動く〉
　主立つ者の行動次第で従う者も行動する（主従）
頭剃るより心剃れ〔鴨長明　歌〕
　見た目には僧侶でも道心が無ければ駄目（形式より精神）
頭の上の蠅を追え　人の世話より自分自身の始末が先決だ
あっちを立てればこっちが立たず　両立は難しい
当てゴテなしでにゃ左官なでけん
　【宛ごて（与える）・左官の鏝】語呂合せ
暑さ寒さも彼岸ぎり〈―彼岸まで〉（気象）
　残暑も秋の彼岸まで　冬の余寒も春の彼岸過ぎれば薄らぐ
後足で砂を掛くる恩知らず〈後足で砂をかける〉
　恩義を受けながら去り際に恩人に迷惑を掛ける
あなぜん風（北西風）**に変われば風雨が止む**（気象）

姉女房は蔵が建つ〈**姉様女房―**〉
生計上手だから暮しにゆとりがある
あばたもえくぼ〈**惚れた欲目**〉愛する者の目には美しく見
あぶく銭身につかず　不正に得た金は詰らぬことで使い果てる
虻蜂取らず〈**二兎追うものは一兎をも得ず**〉
一度に両方は捕れない
甘いものには蟻が集る　人は利に群がる
甘いものを貰って油断するな　魂胆がある
雨蛙が鳴けば雨　雨蛙は湿度に敏感（気象）
雨垂れは石をもほがす〈**雨垂れ石を穿つ**〉〔曽我物語〕
微力でも継続すれば偉大な力となる
甘やかし子は役立たず　子育ては厳格にするべきだ（教育）
雨はひゆうじ（不精者）**の頭に最初に落ちる**
雨の降り初めに気づく程　仕事に散漫（農事）
雨降って地固まる〔毛吹草〕　いざこざの後でよく纏る
雨前の鰯雲　鰯雲（うろこ雲）は雨の前兆（気象）
泡銭に付かず〈**悪銭身に付かず**〉
不正に得た金は詰らぬことで使い果てる
過ちを改むるに憚るなかれ〔論語　学而〕
過失はためらわず改めなければならない
荒草は二十日まで　一番草は田植え後早目の除草が効果的
嵐の前の静けさ　大事件が起きる前の一時の静寂
有るは借銭　無いのが銭
有りそうで無いのが金　無さそうで有るのが借金
案じてくれるより　金をくれ　現金が有り難い
人は口先では同情するが実質的な援助はない
案じるより団子汁　案じても仕方ない【案じる：汁】語呂合せ
案ずるより生むが易し〔狂言　悪太郎〕
実際遣ってみると思ったほどではない　取り越し苦労
あんた百まで　わしゃ九十九まで　共に白髪の生えるまで
夫婦が健康で長生きすることを称えたことば
按摩つかみ取り　坊主丸儲け　あんまと坊主は儲けが多い

い行

言いたい事は明日言え〈**ものは言い残せしゃーは喰い残せ**〉
よく考えて発言すれば失言が無い
言い得聞き損
積極的に発言した方が得　人の言いなりでは損をする
言って聞かせして見せて誉めてやれ〔山本五十六〕
言い聞かせて手本を示し、誉めることが人使いのコツ
言うは易く　行ない難し〔塩鉄論　利議篇〕
言うことは誰でもできるが実行は難しい
言う者にゃ言わせとけ〈**人の口に戸は立てられぬ**〉
人の取り沙汰は防ぎようが無い
家柄より芋がら〈**―喰いがら**〉【家柄・芋ガラ】語呂合せ
落ち目の旧家や門閥を嘲ったことば
家の乱れは女から〈**悪妻は百年の不作**〉
主婦がしっかりしていれば家庭は平和である
家は働かず〈借金コンクリート（鉄筋）〉投資価値が低い

家持ちより金持ち　現金で利殖したが有利
烏賊ン女と鯨ン男はおらん
生き馬の目を抜く世の中
　世の中にはすばしっこくてずるい人が居る
息の臭さ 主知らず　当人には分からないことが多い
意見と餅はつくほど練れる　練るのは【意見・餅】
　論議を尽くした成案と餅の出来栄えの両義
石の上にも三年〔井原西鶴 織留〕　根気は成功のもと
石は大地の骨　大地の基盤を固めている
石橋を叩いて渡る　用心の上にも用心が肝要
意地張るより頬張れ　食べずに意地張っていても得にならない
石も山の肥　石は山を養っている
医者の不養生 坊主の不信心〔風流志道軒伝〕
　口で立派な事を言う者が実行が伴わない
医者の我身知らず　病を治療する人が自らの病に気づかない
衣食足りて栄辱を知る〈**―礼節を知る**〉〔管子 牧民〕
　生活の余裕ができれば道徳心を重んじ身を正すようになる
急がば回れ〔醒睡笑〕〈**近道は遠道**〉
　事を急ぐあまりかえって手間取ることがある
貂の最後っ屁　窮したときに非常手段に出る
一円を笑う者は一円に泣く　少額の金でも無駄にできない
一樫ニぐみ 三かたし(山茶花)　堅い木の序列
一事が万事　一事を見てすべてのことが推量できる
一挙両得　一度の行動で二つの利益を得る　〈**一石二鳥**〉
一升の枡にゃ一升しかひゃーらん　ものには限りが有る
一升の餅にゃ五升の取粉
　主となる物よりも それに付随する物のほうが多く要る
一寸先は闇〔毛吹草〕〈**明日の命は分からない**〉
　未来のことは予知できない
一寸の光陰軽んずべからず〔朱熹 偶成詩〕
　一刻も無駄にできない
一寸の虫にも五分の魂　弱小者にも相応の意地も感情もある
一反田作るより一人扶持減らせ
　収入を増やすより支出を減らすことを考えろ
一反百姓じゃ子は養われん〈**一反百姓は人の尻**〉
　小規模の零細農家では生計が立たない
一朝一夕には事は運ばん　物事は長い間の蓄積でできる
一に押し、二に金、三に男前
　女を口説くには押しが強く金が有ること男前は重要でない
一に種、二に肥、三手入れ
　種と肥料があっても手入れを怠れば収穫できない〈農事〉
一日・十五日は神仏ン花換えろ　神仏礼拝の奨励
一番楽は棺桶の中〈**死ぬほど楽はない**〉
　煩わしい世の中より逃避できたら さぞ楽しかろう
一姫二太郎　第一子が女児で、第二子が男児なら理想的
一文惜しみの百失い〈**安物買いの銭失い**〉
　僅かな金を惜しんで後で大損することを気づかぬ愚かさ
いちゃつきから種が付き　戯れの積りが深い関係になる
一利あれば一害あり　物事には利害両面がある
一を聞いて十を知る〔論語 公治長〕一端を聞けば全容が分かる

何時まっでんあるて思うな 親と銭
　親は歳老いる 金はすぐ減るものだ
従兄弟は糸の如し〈従兄弟糸程〉【従兄弟・糸】
　親が兄弟でも子の代になれば縁は薄くなる
命あっての物種 生命の尊さ
犬は三日飼えば恩を忘れん 忠犬 人はどうだか
祈るよりがまだせ〈祈るより稼げ〉
　他力に頼らず努力によって道を開け
いらん物も三年経てバ為ぇなる
　その時不要な物でも後で役立つ時が有る
入り口のコブの脂 体面を汚す
入るを量って出を制す 収入に応じて支出せよ
色白は七難隠す〔浮世風呂〕 色白は欠点をカバーする
鰯の頭も信心から〔毛吹草〕 信心の対照は何でも構わない
言わぬが花〈沈黙は金なり〉 言ってしまえばおしまいよ
言わぬは言うに勝る〔源氏物語〕 沈黙でも風情で心が伝わる

う行

大釜(うがま)ン飯に小鍋ンしゃー
　ご飯は大釜で おかずは小鍋で調理したが美味しい
多口(うくち)たたきは 引っ込みがつかん 口は禍のもと
多取りするより小取りせろ
　一獲千金を夢見るより小さく堅実にこつこつと働け
多飯(うめし)喰いは冷ヤ飯嫌わず
　大食家は冷や飯でも厭わない
上見りゃ切ンなし 下見て暮らせ 質素倹約の奨励
植えん木にゃ実はならん
　投資しなくてはよい結果(果実)は得られない
魚心有れば水心 好意を示す相手には好意で応えねばならない
うかうか三十 きょろきょろ四十
　あっという間に人生は過ぎ去っていく
烏合の衆 烏の群れに例えて、統一や規律の無い群衆のこと
牛の横と馬の後にゃ立つな 蹴跳ばされるぞ
牛は牛連れ 同類がよい
氏より育ち 家柄より環境や努力次第で立派になる
嘘から出た誠 嘘が本当になる場合もある
嘘つきは泥棒の始まり 平気で嘘を言う者は泥棒も恥じない
嘘と坊主の頭はゆう訳いかん【言う・結う】語呂合せ
嘘も方便〈嘘も世渡り〉
　時と場合によっては嘘も円満解決の手段として許される
打たれても親の杖 親から打たれても情が籠もっている
内の米ン飯より隣の麦飯 他人の事は何でも良く見える
内はたがり(はだかる)の外ぼっそり〈内閻魔の外恵比須〉
　内では威張っていても外では意気地無し
内は裸でも外は錦
　台所は火の車でも世間並みのつきあいは欠かさない
内股ごうやく〔大塔宮〕**〈蝙蝠(こうもり)〉** 無定見 ふらふら
鰻と梅ぼしは合食 食当り(生活の知恵)
旨い物喰わする者に油断するな 下心見え見え 油断禁物

旨か物な早よ喰え〈**旨いものは少人数**〉　沢山食える
馬には乗ってみろ　人には添うて見ろ
　人と親しく交わってみないとどんな人か分からない
馬の後ろと保証人には立つな　災難にあう確立が高い
馬の轡は前から取れ　物怖じせず堂々と取れば暴れない
馬は立たせて飼え　牛は寝せて飼え
　馬には朝餌を与え、牛は夜に与えよ（農事）
海が澄むと雨近し　雨前は海がきれいに澄む（気象）
海千山千　世の中の厳しさや経験を積んだ狡賢い人間
卯味噌、虎酒、辰油　仕込みに不都合な日（農事）
生みの親より育ての親　養い親は愛情もわき 恩義がある
梅は喰うとも核(実)喰うな　実には天神様が宿る
梅干ン腐った年は用心せろ　俗説
怨みほど恩を思え　怨みは忘れないが、それ程恩を忘れるな
売りことばに買いことば　相手の暴言に対して暴言で応える
売り物には花　商品は飾り立てて見栄えをよくして売れ
瓜ン蔓にゃ茄子はならん　血統は争えない
浮気と乞食は止められぬ　浮気癖は直らない
噂をすれば影　噂をしていると当人が現れる
雲泥の差　天と地ほどの差がある
運は正直者の下に宿る　正直者には運が向いてくる

え行

栄枯盛衰世の慣い　栄えたり衰えたりはこの世の習い
易者の身の上知らず　易者は自分の運命を占えない
会者定離〔遣教経〕　会う者は必ず別れる運命にある
海老で鯛を釣る〈**雑魚で、鯛釣る**〉　少ない投資で富を得る
選んでカス掴む　選り好みが過ぎてかえって悪い物に当たる
燕雀いずくんぞ鴻鵠の志を知らんや〔史記　陣渉世家〕
　小人物は大人物の心中を知ることができない
縁は異なもの味なもの
　夫婦の縁は常識で考えられないほど不思議である
遠慮ひだるし　伊達寒し　遠慮すれば空腹、薄着すれば寒い

お行

お家がらがら火の車　家柄を鼻に掛ける人を罵倒することば
　家柄を誇っていても内情は火の車だとよ
追い詰めるな　逃げ路は残しておけ　恩情〈窮鼠猫を噛む〉
老いては子に従え〔大智度論〕　老いてからは子供に移譲
老いて再び稚児になる〈**八十の三つ児**〉　子供にかえる
負うた子に教えられ　自分より未熟な者に学ぶことがある
負うた子より抱いた子　身近なものを先にし勝ちである
大雪の年は豊年　（気象）
煽てと口車には乗りやすか
　人の煽てと旨い話しにのって得した試しは無い
大費いより小費いが太か
　安価な出費が重なって大きくなる
大阪の喰い倒れ　大阪は食費に金を浪費する

大取りするより小取りせろ
　一度に大儲けするより少しずつ堅実に稼げ
大降り三日なし　大雨が三日続くことはない（気象）
お貸し 下され　貸したら呉れたと思え　返ってはこない
起きて働く果報者　健康で働ける人が一番幸せ者
起きて半畳　寝て一畳　一人が占める面積は誰も同じ
沖の物を得んとして岸の物を逸す
　大利を得ようとして小利をも逃がす
屋上屋を架す〈屋下屋を架す〉〔顔氏家訓〕
　無益な事を重ねる
お里が知れる　言動で生立ちや前身が判る
おしあなん風（南東風）**は強い台風**（気象）
教えるは学ぶの半ば成り　教えることは自ら学ぶことでもある
お世辞言うて陰で謗る　阿る者が陰では悪口を言う
遅い助けは助けにならん
遅くともしないよりは益し
煽てと口車には乗り易い
音が近くに聞こゆる時は雨　雨雲が垂れ込める（気象）
夫よければ妻も良し
男が敷居を出れば七人の敵あり　社会活動は容易ではない
男が笑うのは三年に一度　威厳は男の美学とされた
男にゃ家建てさせろ、女子にゃ子産たせろ　夫と妻の役割
男は当って砕けろ〈男は度胸〉　とにかく挑戦
男は妻から治まる　夫は妻によって人格が完成される
男は松、女御は藤〈松の力で藤も這う〉〔薩摩歌〕
　頼れる男になれ　女は男を信じて頼れ
男は無口がよか
男やもめにゃ蛆が湧き女やもめにゃ花が咲く
　男やもめには不潔だが女やもめは身奇麗で男にもてる
男ン着物は左前に着るな　死装束
おっとり果報にせかせか貧乏　貧乏人は何時も忙しい
おどま勧進勧進あん人たちゃよか衆　貧富の差
女御は三界に家なし　三界：過去 現在 未来
　幼い時は親に従い、嫁しては夫に従い、老いては子に従い、
　女はどこにも安住の家が無いという嘆き
女御は愛嬌、男は度胸　最近は男は愛嬌、女は度胸
女子の一念岩をもとおす　女の執念が根深いことの例え
女御の髪は暴れ馬も繋ぐ　女は男を引きつける強い力がある
女御の寒いと猫のひだるいは手の業（甘え）
女御の尻と猫の鼻は冷たい
女御の尻と猫の鼻が温いのは土用の三日だけ
女御のそばと火の側は離れ難い　温かい
女御の股力には叶わぬ〈努力した者には叶わぬ〉
　努力の【努】の字は【女の又力】と書く
鬼の中にも仏　悪人と言えども良心の欠片はある
鬼の眼にも涙　鬼にも情あり
鬼も十八番茶も出はな　鬼も年頃が良い。番茶も最初は美味しい
己の頭の蠅を追え　自分自身の始末が先決
己責めても人を責むんな〔東照公遺訓〕　我身を反省せよ
帯に短し たすきに長し　中途半端で役立たない

覚えたことは荷にならん　知識は何時か役立つ時がある
お前百まで儂や九十九まで共に白髪の生ゆるまで　（共白髪）
　夫婦円満で長寿
お思し召しよりゃ米の飯　心づかいより実物が良い
溺るる者は藁をも掴む　危急の場合は何にでも頼る
お召し買うより オシメ買え　実用品を先に買え
思う事言わねば腹脹(ふく)るる〔徒然草〕　気持が納まらない
思うことは寝言にも言う　自然に寝言にも出る
思えば思わるる　人に好意を示せば通じるものだ
親が親なら子も子　悪い処は親によく似る
親が苦労(黒)すれば子の白ぅなす【黒魚：コノシロ】語呂合せ
　親の苦労を子供は何とも思わない
親方日の丸　経費は総て親方持ち（浪費の戒め）
親が憎けりゃ子まで憎い〔人丸集〕　子供に罪は無いものを
　〈坊主憎けりゃ袈裟まで憎い〉
親孝行したい時には親はなし　存命中に親孝行をしよう
親づれより同士ずれ〈―友ずれ〉　友達の影響を受け易い
親と月夜は有り難い　親下は安心して過ごせる
親に似たガメ(亀)ン子　親に似て長所が無い
親に似ン子は鬼子　子は必ず親に似る
親には一日三度は笑うてみせろ　笑顔で接しろ
親に目なし　可愛さの余り子の悪さが分からない
親鼠を今年生まれた猫が捕る
親の言う事は聞かずとも 親のする事ぁ直ぐ真似る
　子供は親の仕種を見て真似ぶ（学ぶ）
親の意見となすびの花にゃ 百に一つの仇もない
　親は子供の事を思って意見するのだから間違いはない
親の意見と冷や酒は 後でじわじわ利いてくる　思い当たる
親の因果が子に報い〔浮世床〕〈**悪業は因果応報**〉
　親の悪業の結果が罪もない子が禍を受けることになる
親の思うほど子は思わぬ
　親は常に子の事を案じるが、子供は親をさほど思わない
親の恩より義理の恩〔妾形気〕　世話になった人の恩が優先
親のカリー(借金)ばコノシロに【カレイ：コノシロ】語呂合せ
　親の借金のことは、子供の私は知りませんよ
親の苦労子知らず〈**親の心 子知らず**〉
　子を生んで初めて分かる親の恩
親の五十年忌と竹の回し切りは合わぬもの　滅多に合わぬ
親の背中が子に手本〈**親の背中を見て育つ**〉　親を真似る
親の罰は子に当る〈**親の因果が子に報ゆ**〉
親の道を子が通る　家業を継ぐのが安全
親の目はひいき目　親の欲目
親の悪さと味噌の腐れは直しが利かん　親の欠点は直せない
親父の足形肥料に勝る　田畑の管理が大事（農事）
親は子の鏡〈**親の背中を見て育つ**〉　親の人柄まで写し出す
親はなくても子は育つ〔世間胸算用　井原西鶴〕
　親が死んでも子供はどうにか育って行くものだ
親煩悩子畜生〈**親が苦労(黒魚)すれば 子の白う(鮗(このしろ))なす**〉
　親が子供のことを案じる程子供は深く親の事を思わない
親見て嫁もらえ　親を見ればどんな娘かよく分かる

尾を振る犬は叩かれず　従順な者は可愛がられる
温故知新　古いことを深く研究して新しい見解を開くこと
〔論語　為政〕
恩知らずは畜生にも劣る　恩を忘れるな
音痴が歌えば味噌が腐る
女心と秋の空〈**男心は秋の空**〉女の心は秋空のように変わり易
女三人寄れば姦しい　女はおしゃべり好きで喧しい

か行

飼犬に手を噛まれる　愛している人や部下に裏切られる
偕老同穴〔保元物語〕　仲睦まじい夫婦の契り　死んでも一緒
柿が赤ぅなれば　医者は青ぅなる【赤・青】語呂合せ
晩秋は健康で体調を崩す患者が少ない
籠に乗る人担ぐ人そのまた草鞋を作る人　人は様々
頭が動かねば尾も動かじ〈**率先垂範**〉【頭・尾】語呂合せ
上に立つ者が率先しなければ下の者は動かない
嫁して三年子なきは去る
結婚して三年経っても子供が生まれないと離婚の理由とされ
嫁しては夫に随い　老いては子に随え　妻の心得　俗説
火事でさえ土台石は残るが道楽息子は何も残さん　土台石もな
稼ぐに追い付く貧乏なし　家業に勤しめ
風邪は万病の元　風邪がもとで余病を併発し勝ちである
堅い木は折れ易い　柔軟なほうがよく事に耐えられる
隔靴掻痒
靴の上から足を掻く如く思いどうりにならない　もどかしい
我田引水　自分の都合だけを考えて物事を運ぶ
瓜田に履を納れず〔古詩源　君子行〕
疑いを招く行為の戒め
金があるところには人が集まる　誰でもお金は大好き
金が金をつくる　金は投資や利殖で財産を増やす
金の貸し借り不和のもと　金のトラブルは敵をつくる
金の切れ目が縁の切れ目　交際と義理を欠けばテキメン
金は金持ちの家に集まる　金持ちは金儲けが得意
金は邪魔にならぬ　金はいくら持っても重くない
金は光らせて使え　有効に使え
金持ちは金を使わず　金持ちは苦労を知っている
金持ちと糞溜めは　溜まるほどきたない　金持ちはケチ
金持ちより同志持ち　友人が多く持つ人が良い
禍福は　糾える縄の如し〔史記賈誼列伝〕
この世の禍福は表裏一体、禍を悲観せずともよい
果報は寝て待て　幸福は運によるものだから天に任せろ
壁に耳あり　障子に目あり〔博聞録〕　密談は漏れ易い
神様のお供え物は、満ち潮時　満潮は吉
神棚は東向き　仏壇は西向き〈**北向き**〉方位占い
神棚と便所の方位は東北と南西を避けよ　方位占い
雷ン鳴る時は蚊帳を張れ　落雷避難
雷ン鳴る時は桑畑に逃げろ　桑原桑原
亀の甲より年の劫(功)【甲と劫(功)】を掛けたことばあそび
年長者の経験は尊ぶべきだ

カモメの高飛びは時化前　（気象）
鳥が集まって鳴く時は不幸がある　死の予兆　俗説
烏のへぐらしは雨　（気象）
借り着より洗い着　貧しくとも自前が良い
借り手になるな 貸し手にもなるな
　金の貸借によるトラブルは多いもの
借りる時の恵比寿顔〈―**地蔵顔**〉返す時の閻魔顔
　借りる時の恩を忘れちゃ駄目
枯れ木も山の賑わい　数が揃えば無いよりはまし
川ン物と浜ン物は取っても盗人にならん　人の物は人の物
髪毛が縮む時は雨　湿度が高い（気象）
可愛い子には旅させろ〈**可愛い子には薄着させろ**〉
　子供に辛い経験をさせる事は教育上良い結果を生む
可愛さあまって憎さ百倍
　可愛さが強いほど一旦憎しみに変われば酷く憎い
考え事は雪隠〈―便所〉アンモニア臭で脳を刺激す
癇癪もちの箍弾け
　短気者は箍が外れたように自制心を失う
元旦の初客が男ならば一年中縁起が良い　俗説

き行

聞いた百より見た一つ〈**百聞は一見にしかず**〉
聞いて極楽 見て地獄　聞くと見るとは大違い
聞き上手の話下手　座持は上手だが意見を言えない
聞き上手は話上手　相手の話をよく聞いて自分の意見を通す
聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥
　聞かないで知らないほうが一生恥ずかしい思いをする
聞けば気の毒 見れば目の毒　見聞きすればやはり心配する
雉子も鳴かずバ撃たれまい〔神道集〕　無用な発言が禍を招く
来たる者は拒まず 去る者は追わず〔孟子〕
　来る者を拒んだり去る者を引き止めたりしないがよい
木戸口に刺のある物を植えれば魔避けになる　俗説
北枕は(西枕)するもんじゃか　俗語
汚くもうけて奇麗に使え　金は有効に使え
きちがいに刃物　極めて危険
木人形も衣裳から〈**馬子にも衣装**〉
　身なりを整えれば見違えるよ
昨日の情け 今日の仇〔源氏令泉節〕
　親しかった者が敵になる　人は当てにならない
昨日は人の身 今日は我身　災難はいつ降り掛かるか分からない
木箸と竹箸を一緒に使うな　遺骨を拾う箸（作法）
気は持ちよう〈**心は持ちよう**〉
　気がしっかりしていれば悲しみや苦しさも乗り越えられる
木元 竹末　木は根元から竹は末口から割るがよい
鬼門に鬼瓦　鬼門の方角に鬼瓦を据えて魔除けにする
着物の初卸は仏事からが良い　どちらも同じ
窮鼠 猫を噛む〔塩鉄論〕　追い詰められると弱者も強くなる
兄弟は他人の始まり〔沖津白波〕　結婚すれば兄弟愛も薄れる
木六竹八　木は六月1竹は八月以降伐採せよ（旧暦）

京都の着倒れ　京都の人は医療費に金を浪費する
共同責任　無責任　責任を分散すれば責任感が薄れる
起用貧乏　人宝　起用故に自分は貧乏して他人助けになる
　②一つのことに徹しないから成功しない
今日ン仕事は明日に延ばすな　労を惜しめば負担になる
今日の一針　明日の十針　少しの労を惜しめば労が重なる
義理は借物　義理は返さなければならない
義理張るより頬張れ　無理なつきあいより自分の事が大事
切りようより盛りよう　調理の仕方は盛り付けが大事
器量より気前　美貌より性質の良い女が望ましい
木を矯(たた)めるなら若木のうち　若い時期に教育するがよい
近所に事なかれ〔八犬伝〕　近所に問題があれば自分に波及す

く行

食いつく犬は吼えぬ　実力あるものは決して喚かない
食い物は小勢　仕事は大勢
　食べ物は少人数がよく、仕事は大勢でした方が楽だ
食い物は粗末にする者はのさり(授かり)が無い
　食べ物を大事にする教え
食い物は箸から箸渡しするな　遺骨箸（作法）
臭い物には蝿がたかる
　不正をする者のところには不正な人が集まる
草は見つけたとき引け　後では根が張って引けない
臭い物には蓋をせろ〔世話尽〕　醜聞が漏れるのを防ぐ
腐っても鯛〈破れても錦〉　良い物は傷んでも価値がある
腐れ縁は絶たれず　悪縁はなかなか切れない
くじくじすンな　十時になるぞ【くじ：十時】の語呂合わせ
鯨ン男と鱶ン女はおらん　【鯨：抉(くじ)らん】【鱶：拭かん】
薬九層倍　百姓百層倍〔茶人気質〕　薬屋も百姓も利潤が大きい
薬は毒ほど効き目なし　悪事は影響が大きい
薬も過ぎれば毒となる〔醒睡笑〕〈**過ぎたるは及ばざるが如し**〉
薬飲むより食養生　食事は健康の源　普段の養生が大切
糞見て踏むな　馬鹿見て構うな　無益なことに関わるな
蛇(くちなわ)を早う見る年は酷暑になる（気象）
口が動けば手が休む〔紙子仕立両面鑑〕喋れば仕事が疎かになる
口と財布は締めとけ　多弁と浪費の戒め
口にうまかもんな腹に毒　美味しい物は大食し勝ち
口の下にほくろがある者は　喰い物に不自由せん　俗説
口に関所なし　何を言っても良いが責任が伴う
口は口　心は心　口先と心の中とは違うものだ
口は重宝〔遊君三世相〕　口では何とでも言えるが実際は違う
口八丁手八丁　話も行動も達者
口は閉じても眼は開け　ことばを慎んでも観察眼を養え
口は禍の元〈**口は禍の門、舌は禍の根**〉　ことばを慎め
竈(くど)は前で焚(た)け　風呂は奥で焚け　熱効率が良い
苦は楽の種　将来楽をするために今、苦労するのだ
首にほくろがある者は衣裳持ち　衿ぼくろ　俗説
苦しい時の神頼み　苦しい時だけ神仏に助けを求める
暗闇の頬被り　何の役にも立たない

苦労せンば楽しみなし〈**苦は楽の種**〉
今苦労をしていれば将来は楽に暮らせる
君子危うきに近寄らず　危うい所へは行かない〔孟子尽心〕
君子豹変す　過ちを改め善に移す　これまでの言動を平気で覆
葷酒山門に入るを許さず　葫（にんにく）や酒は修行の妨げになる
九日餅（廿九日）は搗くな　【九】が【苦】につながる

け行

怪我の功名　しそこないが偶然良い結果を生む
下戸（げこ）の建てた土蔵なし〔世間胸算用〕
酒を飲まない人が財産家になった例えは聞かない　（呑助）
下種（げす）の後知恵　事が済んでから考えつく
下種のかんぐり　下種は邪推が多い
下種の口には戸は立てられん　下種の口は防ぎようが無い
下駄の鼻緒が切れたら出掛くンな　縁起担ぎ
煙りが燻（くす）ぶっている夢をみれば災難に遭う　俗説
煙りがまっ直ぐ上がれば晴れ　無風（気象）
煙りが東に流るれば晴れ　（気象）
喧嘩は最初にしろ　問題点は先に解決し後にしこりを残すな
喧嘩は両成敗〔夏祭浪花鑑〕　双方に罪が有るので同様に罰する

こ行

恋はくせもの〔花月〕　人は恋のために分別や行動が狂う
恋は盲目　恋愛は理性を失う
光陰水の如し　過ぎ去った月日は戻らない　〔顔子家訓　勉子
光陰矢の如し〔禅門諸祖偈頌〕　月日が過ぎるのは早い
碁打ちゃ親の死目に会わん　熱中し過ぎて時を忘れる
孝行したいときには親はなし　親孝行は親が生きている間にせ
孝行とからいもン肥はし過ぎる事はない
〈**親孝行したい時は親はなし**〉　悔やまぬ先に孝行を
郷に入れば郷に従え〔童子教〕居住地の風俗習慣に従うがよい
効能書ゃ読めんところに効能あり　治そうと思えば効能がある
紺屋（こうや）の白袴（はかま）〔三十二番職人歌合〕
人の為に尽くし、自らを構わない
声の太いが勝ち　大声で圧倒するほうが勝つ場合が多い
声の太か者にゃ悪か人間なおらん　隠し事が無い
肥より鍬　手入れが肝要（農事）
五月の腐れ鯛　五月頃は鯛の味が落ちる
五月の夕焼け井手落とし　大雨の前兆　井手の水を外せ
こけても馬ン糞なっと掴（つか）うで起きろ　失敗を無駄にする
ごけ（寡婦）にゃ花が咲き男やもめにゃ蛆が沸く
男のやもめ暮しは身の回りが不潔になりがちだ
心は二つ身は一つ　あれもこれもしたいが両方はできない
心弱くして父無し子生む〔世話尽〕　だらしない者は禍を招く
五十にして天命を知る〔論語〕
五十歳になって天が与えた人間の使命を知ることができた
東風は嵐の前ぶれ　（気象）
東風焼けは雨の前ぶれ　雨前には東風焼けになる（気象）
子供怒るな来た道じゃ　年寄り笑うな行く道じゃ

長い人生自分も同じ道を歩くのものだ

子供と金玉（睾丸）は荷物にならぬ　我が子は負担にならない

子供三人もたんば親の恩ナ解らん　三人生んで親の恩を知る

子供だましの親泣かせ　子供を喜ばすための親の出費

子供の前では内輪(痴話)喧嘩するな　家庭円満が第一

子供は教え殺せ 馬は飼い殺せ　教え過ぎることはない

子供は親の後姿見て育つ　親を見習う　真似ぶ(学ぶ)

子供は親ン光 老いては子の光

親の築いた地位や財力で育ち、世帯交替で子供に養われる

子供は炉端で聞いたことを大道で話す　よく聞いている

事を為すには人の和・地の利・天の時が大事

人の団結力、地勢の利便性、タイミングが大事だ

こなさんバ蜂は刺さん　蜂は攻撃しなければ刺すことは無い

子持たずに子供呉ンな　生んだ経験が無い人は愛情が薄い

東風焼(朝焼け)なら明日は雨（気象）

子の恥は親の恥〔閑情末摘花〕　親子の関係は不可分である

子は有るも嘆き 無きも嘆き　有っても無くても嘆きの種

子は一代夫妻は二代 主従は三代 他人は五代

親子関係はこの世限り、夫婦はあの世まで続く、主従関係は過去・現在・未来の三世、他人との関係は更に深い

子は鋏　子供に対する愛情故に夫婦仲も融和され

子はこもうもって(小さく産んで)**太ぅ育てろ**

胎児は小さいほうが安産　育児は栄養と健康が大事

子は三界の首枷　子を思う親心に引かされる

蜘蛛が朝から脂脂張れバ晴れ　無風状態（気象）

蜘蛛が低いところに脂張る年は台風が多い　（気象）

困った時の神頼み〈苦しい時の―〉　困った時だけではだめ

米は百姓の手間日間八十八度　【米】分解文字【八十八】

米になるまでには随分と手間暇が掛かる（農事）

米は百姓の汗と涙の結晶　米作りは労苦が多い（農事）

子故に迷う親心　子を思う愛情故に思慮分別を失う

子より孫が可愛い〔松風村雨束帯鑑〕　孫を溺愛

碁を打つより畑打て　飯のタネが先決　【打つ】の語呂合せ

子を見れば親が判る　子は親によく似るもの

子を持って知る親の恩　自分が親になって初めて分かる

米ん飯よりゃお思し召し　物より心使いが嬉しい【飯・召し

怖がる女と寒がる猫はうそ　猫かぶり

さ行

財布に蛇の抜け柄を入れると金が入る　蛇は吉相

財布の中と心の中は人に見せるな

みだりに本心を語らぬが良い　財布も警戒せよ

財布は春(張る)に買え　【春・張る】語呂合せ

桜切る馬鹿 梅切らぬ馬鹿

桜を切れば枯れる、梅は剪定せねば結実が少ない（農事）

先立つものは金　何をするのも金銭が第一

先んずれば人を制す　手回しがよければ人に勝ることができる

〈**早い者が勝ち**〉〈**先手必勝**〉

酒が酒を飲む　酔う程に馬鹿飲みをする
酒覚めたら来い　【鮭・鮫・鱈・鯉】魚名の語呂合わせ
酒なくて何が己の桜かな　桜花より酒がよい〈**花より団子**〉
酒に十得あり〈**酒は百薬の長**〉〔狂言　餅酒〕
　百薬の長・寿命を伸ばす・旅行に食あり・寒気に衣あり・推参に便あり・憂いを払う玉箒・位無くして貴人に交わる労を助く・万人和合す・独居の友となる（十得）
酒はきちがい水　酒は人を狂わせる
酒は飲んでも飲まるんな　本心を失うような飲み方はダメ
酒は止めても酔い覚めの水は止められぬ　酒よりうまい
迫霧（靄）は雨　（気象）
注された酒は飲むもの　勧められたら受けるべきだ
早立（夕立）は馬の背中を分けて降る　局地的な雨　（気象）
鯖の生き腐れ　鯖は鮮度が落ちやすく寄生虫が居るので要注意
申年の梅は薬になる〈**―難が去る**〉【申・去る】語呂合せ
猿も木から落ちる〔鷹筑波〕　自信過剰すると失敗する
去る者日々に疎し〔徒然草〕　遠ざかると交情が薄れる
座を見て法を説け〈**人を見て法を説け**〉　相手の人柄を見よ
三月の忘れ雪　（霜）　忘れた頃に降る雪　（気象）
三月浜ン潮が一番引く　旧暦三月の大潮　（気象）
三尺さがって師の影を踏まず　師を敬う心掛け
三十にして立つ　三十歳で独立する　自立する〔論語　為政〕
三人で写真に写れば中の一人は死ぬ　俗説
三人寄れば文殊の知恵　三人寄れば文殊菩薩程の妙案が生まれ
三年子なきは去る
　昔は結婚して三年子供が生まれないと離縁の理由とされた

し行

しいら穂（粃＝実が入らない稲穂）**の先走り**
　出穂が早すぎて粃になる場合がある
地がでる　地金が出る　箔が落ちる
敷居に乗れば足が腐る（行儀作法）
地獄の釜の蓋が開く　盆の十六日は鬼も休み
地獄の沙汰も金次第　金は万能
仕事は追うてせろ　仕事に追わるンな　計画性を持て
仕事は多勢　旨い物は小勢
　仕事は大勢ですると楽　旨いものは少人数が割当が多い
四十がったり　五十さっぱり　歳と共に体力が衰える
四十九日までは生臭物を喰うな　精進料理
四十後家とは道連れするな
　女盛りだから魅了されて間違いを犯しかねない
四十七の生み仕舞い　お産は四十七歳までに
獅子身中の虫　獅子に寄生する虫の如く恩人に害を及ぼす〔梵網経〕〈**庇貸して母屋取られる**〉
始終使う鍬は光る　鍬は使わないでいると錆びる
地震の時は竹藪に逃げろ　地割れの心配なし（気象）
児孫の為に美田を買わず〔西郷隆盛〕
　子孫に財産を残しても真に子供の為にはならない
親しい者に銭貸すな　金の貸借はトラブルのもと

親しき中にも礼儀あり　慣れ過ぎて礼を欠くな
舌は禍福の門〔老子〕**〈舌は禍の根〉**　ことばは禍を招く
下の歯が抜けたら屋根に上げろ　俗説
失敗は成功の元　失敗も経験したほうが人生の糧になる
師弟は三世〈主従は三世〉〔義経記〕　師弟関係は深い因縁だ
十遍探して人を疑え　人を疑うな　思い違いも有る
十遍読むより一遍写せ〔鶴林玉露〕　読むより書くが記憶に残
十八後家は味知らず　四十後家は味喰らい　美味しさが判る
し直しは一時　出来栄え見るは末代　し直しを厭いとうな
し慣れのし損じ　慣れた頃に失敗が多い
死金使うな　生かして使え　金は有効に使え
死人と女の着物は左前　（和装）
死人に口無し　死人に無実の罪を着せてはならない
死人を猫が跨げば生き返る　（迷信）
死ぬほど楽はない〈どこの阿呆が生きて働く〉
死ねば死損　生くれば生得〈死んで花実が咲くものか〉
自慢高慢　馬鹿の行き止まり　自慢するのは馬鹿の骨頂
自慢の糞は犬も食わぬ　自慢話の相手はいない
霜上げには雨が降る（気象）
借金は己を失い　金貸しは友を失う**〈一元金を失う〉**
　借りた人は頭が上がらない　金貸しのトラブルは友を失う
蛇の道は蛇　同じ仲間ならすることが自然に分かる
喋るものは半人足〈口が動けば手が休む〉
出藍の誉れ　師匠より弟子が優れる　親より子が優れる
〔荀子　勧学〕

姑の後は嫁が継ぐ　後を継ぐのは娘ではなく嫁なのだ
姑の仇を嫁が討つ　姑の敵を息子の嫁に晴らす
重箱の隅をほじくる　細かいことを穿鑿する
朱に交われば赤くなる〔世話尽〕　交わる友により感化される
正直者が馬鹿を見る　正直者は騙され易く損をする
〈正直者は馬鹿のうち〉
障子に眼あり　壁に耳あり
　どこで誰が見たり聞き耳を立てているか分からない
生者必滅　会者定離〔涅槃経〕
　生きているものは死に　会ったものは別れるのが世の無常
常時着する者　晴れ着無し　普段着と晴れ着の区別がない
上手の手から水が漏る〈弘法も筆の誤り〉
　名人も失敗はある　②自信過剰になると思わぬ失敗がある
少年老い易く学成り難し〔朱熹　偶成〕
　老いるのは早い若い時に時間を無駄にせず勉強しておけ
商売は牛のよだれ　商売は根気よく,急いては事をし損じる
醤油甕が汗掻けば雨（気象）
知らぬが仏〔一代男〕　知らなければ平気
知らぬ神に祟りなし〔敵討襤褸錦〕関係を持たなければ禍もな
知らぬは亭主ばかりなり　当事者は案外迂かつである
知らぬは人の心〔平治物語〕　人の心は判じ難い
知らぬ仏より馴染みの鬼　疎遠の者より懇意の者がよい
尻尾振る犬は叩かれず　従順な者は可愛がられる
尻が割れる　悪事が暴露する　馬脚を表わす
汁椀な飯椀の右に置け　仏飯は逆（作法）

人事を尽くして天命を待つ〔初学知要　知命〕
　人力の限りを尽くし、その上は焦らず天命を待て
新車とよかおなごは人が見たがる乗りたがる　見るだけにして
信心すれば徳あり　信心すれば神仏の加護がある
信心より用心　信用も大事だが用心することが肝要
信心が過ぎて極楽通り過ぎ　信心に懲りすぎて却って邪道へ陥
人生七十古来稀なり〔杜甫曲江詩〕※古稀の語源
　七十歳まで生きる人は昔から稀だ（今は長寿）
死んで花実が咲くものか　この世で一花咲かせましょう
死んでも書いたものが物を言う　書面は証拠物件
辛労損のくたびれ儲　無駄な労力だったよ
薪の灰で灰汁を抜く（生活の知恵）
辛抱する木（気）には金がなる〈**辛抱の棒が大事**〉　忍耐が大事
信用は家宝也　信用が最も大事

す行

好いた目にはあばたもえくぼ　愛していれば美しく見える
据膳喰わぬは男の恥　女の誘いには乗れ（隠語）
据えて待つは灸　据え膳を勧めることば　遠慮なく召し上がれ
据えた盃にゃぼうふらが湧く　早く飲み干せ
すがねの穴が堤を崩す　大事件も発端は小さな事から起きる
すがねの行列は雨前　（気象）
好きこそものゝ上手なれ　好きなことは上達が早い
過ぎたるは及ばざるが如し〔論語　先進〕度が過ぎればダメ
空きっ腹に不味いもの無し　何でも美味しい
すじ雲ン時は嵐の前兆　（気象）
雀の千声　鶴の一声〔毛吹草　世話尽〕
　色々言うより中心人物が一事言えばピタリと納まる
雀百まで踊り忘れず　幼少の躾は何時までも覚えている
すっぽんが噛み付けば雷ン鳴るまで離さん　離しません
捨てる神あれば拾う神あり〈**―助ける神あり**〉
　相手にしない人ばかりではない　助けてくれる人もいる
脛かじりの歯の白さ　親の庇護を受けた子供は苦労を知らぬ

せ行

清濁併せ飲む　広い度量で受入れる
急いては事をし損じる〔出世景清〕〈**急がば回れ**〉
晴天の霹靂〔陸游〕　降って沸いた大事件
積善の家必ず余慶あり　善行を積んだ家にはその徳が子孫に及
世間の口に戸は立てられん　止めようが無い
セセリ（蚋・ブユ）が群れると雨　（気象）
節句に菖蒲湯に入れば風邪ひかん
　菖蒲湯は体が暖まる（生活の知恵）
節句働き〈**ひゆうじの盆働き**〉計画性が無い人を蔑む
背に腹はかえられぬ〈**溺れる者は藁をも掴む**〉
　目前の苦難を免れるためには他の犠牲はやむをえない
善悪は友による　〈**朱に交われば赤くなる**〉
　友達の感化影響が大きい

銭金は親子でも他人　金に親子はない
栴檀は双葉より芳し
　栴檀は芽のうちから香りがよい非凡な人は幼児期から違う
銭では信用は買えないが　信用は金を生む　信用が第一
せんが堪忍　するが堪忍
　もう堪忍できないところを耐えるのが本当の堪忍だ
船頭多くて舟山に登る〔千紫万紅〕
　指導者が多くて統一が取れず、目的と違う方向へ進む
千里の道も一足から〔老子　六十四章〕
　〈**千里の道も足下から始まる**〉　遠い道程も第一歩から
千の蔵より子は宝　子供は千の蔵にも代えられない
銭は汚く貯めて奇麗に使え　苦労して貯めた金は有効活用
全部揃うて箸を取れ　全部用意が整ってから取りかかれ
銭を粗末にする者ナのさりがない　無駄にするな

そ行

葬式帰りの医者話　後の祭りの愚痴　〈**泥棒捕まえて縄をなう**〉
葬式帰りは他所に寄ンな（礼節）
葬式の三日目には悔やみに行くな（礼節）
掃除好きな子は美人の子を産む（家庭教育）
そうは問屋が卸さない　思いどうりには相手が応じない
素麺は年越しに喰うが旨い　熟成する
総領の甚六　長子は俊敏でない
そこのけそこのけ理屈（お馬）**が通る**
そしれば影〈**噂をすれば影**〉　噂の本人が表われる
袖ば折り曲げて寝れば　好きな人の夢を見る　俗説
袖摺り合うも他生の縁〔狂言　松ゆづり葉〕　宿世の因縁による
備えあれば憂い無し〔左伝〕　準備を怠るな
空を飛ぶ夢は縁起の良か　欲求不満か　俗説
損して得取れ〈**損せぬ人に儲け無し**〉　時には損を覚悟で

た行

代が変われば世も変わる　世帯が変われば家風も変わる
大根と女房は盗まれる程良い　良いから盗まれる
大事の前の小事　油断禁物　②小事を犠牲にせねばならぬ
大事は小事より起こる　小さな事から失敗することがある
大は小を兼ねる〔毛吹草〕　小さい物の役目をすることができ
台風前には鼠が逃げ隠れる（気象）
台風は西風に変われば止む　戻し風（気象）
大木は倒れても土着かず　大者は失敗しても影響が薄い
大物は削つり取れ　大きな石などは少しづつ欠いて取れ
田植の夢は身近かに無情がある　俗説
鷹の目にも見落とし　目敏い人にも失敗はあるものだ
竹ン子の親勝り〔毛吹草〕　成長が早く親より優れている
畳の縁を踏めば足が腐る（行儀作法）
畳敷きは四隅をつくるな　四を死に繋げて忌み嫌う　縁起
只より高い物はない　只で貰えばお返しの方が高くつく
建ち家の餅投げは満ち潮時に投げろ　満ちは吉　縁起

断ち切るときは三度積もって　一度に切れ　慎重に
立っとる者ナ親でン使え　急ぐ用事は手近な人に頼め
辰年生れが三人揃えば家が建つ　【建つ・辰】語呂合せ
辰年生れの女は男を尻に敷く　元気者が多い
立つ鳥後を濁さず〔織留〕　去るときはよく始末をすべきだ
辰の日には着物は断つな　【辰・断つ】語呂合せ
立つより返事　呼ばれたら、立つ前に返事するものだ
立て板に水　弁舌さわやか
蓼喰う虫も好き好き〔世話尽〕　人の好みは一概に言えない
立てば歩めの親心　子供の成長を待つ親心
棚から牡丹餅　思いがけない幸運
他人の荷物は軽く見える　自分だけが苦労人と思い勝ち
他人の飯を食わねば親の恩は分からぬ
　世間に出て苦労しないと親の恩は分からない
煙草は百害あって一理なし　害が怖けりゃ禁煙しては？
旅は道連れ世は情け〔毛吹草〕　旅先では助け合って楽しい旅を
食べ物を箸から箸渡しにすンな　遺骨箸（行儀作法）
黙っているものに油断するな
　無口の人は何をしでかすか分からない　黙って大事を為す
玉磨かざれば光なし〔実語教〕　才能があっても修業が大事
足らぬは余るよりよし〈**知足**〉　無駄の戒め
足るを知るものは富む〔老子〕
　質素を旨として満足な生活ができる人は心が豊かな人だ
便りの無いのは良い便り　便りなければ無事な証拠
田を買うなら水、山買うなら木場見て買え
　田は水利がよく山は木の育ちを見て買え（農事）
短気は損気　〔毛吹草〕　短気を起こすのは損である
団子やって餅貰う　親切が倍になって返ってくる
反物ば断つ時は七度積って一度に断て
　切り損じがないように慎重に切断せよ（生活の知恵）

ち行

知恵多ければ憤多し　世の中の矛盾に憤慨する事も多い
知恵者一人に馬鹿万人　知恵者には万人も叶わない
知恵者は語らず　知った振りをしない
知恵者は人の過ちに学ぶ
知恵の無い子に知恵つける　無心な子どもに悪知恵つけるな
知恵は小出しにせろ　出し切れば窮する
近い者に銭貸すな　近親に貸した金は取り立てにくい
近くて見えぬが睫毛〈**灯台下暗し**〉
地震の時は竹藪に逃げろ　地割れの心配なし（気象）
父の恩は山より高く、母の恩は海より深し〔童子訓〕
〈**父は天　母は地**〉　両親の恩は広大である
血止めは蓬バ揉んで付けろ　止血作用あり（生活の知恵
地の利は　人の和に如かず〔孟子〕
　地形が便利でも人の団結力には及ばない
茶碗を叩けば貧乏神が寄ってくる（行儀作法）
茶碗に口付けて喰えば猫になる（行儀作法）
ちょい惚れのちょい飽き　惚れ易い者は冷め易い

蝶が群れ飛ぶ時は雨前　（気象）
提灯持ちの足元暗し　提灯持ちは前歩け〈**灯台下暗し**〉
塵も積もれば山となる　僅かな物でも積もれば高大になる

つ行

搗いた餅より心持ち　品物より心づかいが嬉しい
使う鍬は光る〈玉は磨かねば光らない〉
月と星が近か時は不幸がある　俗説
月に雨傘　日に日傘あれば雨
　月に暈(かさ)があれば雨　日に暈あれば雨（気象）
漬物誉めれば親爺が悋気(りんき)する　何故味を知っている　俗語
燕(つばめ)が低く飛ぶ時ゃ雨　昆虫が群れる（気象）
綱渡りより世渡り　世渡りは難しい
角を矯(た)めて牛を殺す〔竹斎物語〕
　欠点を直す方法も度を越せば全体を駄目にする
つましか男に青菜見するな　野菜は湯掻くと極端に減る
罪を憎んでその人を憎まず
　罪は悪いが、侵した人を憎むのはよくない
爪に大きな半月が出ている人は健康体　血流が良い
面がもの言う　顔が売れていて無理が通る　顔に心情が表れる
面張るより頬張れ　面体より実利を取れ
釣り道楽の行き止まり　魚釣り道楽以上のものはない
鶴の一声　雀の千声〔苅萱築門〕
　色々言うより中心人物が一事言えばピタリと納まる

て行

亭主八杯　客三杯〔酩酊気質〕　接待する側が逆転する
手飼いの犬に手を噛まれる〔世話尽〕　恩義ある人に義理を欠
手が冷たい人は心が温かい　俗説
出掛けに草履の鼻緒が切れると不吉　縁起
でこに馬鹿なし　額には知恵が宿ると言う　俗説
出そうで出ぬのが石原筍(たけのこ)　出にくい例
出針(出掛け前に針を)使うな【出払い=出て仕舞う】忌み嫌う
鉄は熱い打ちに打て　未成熟な内に鍛えておけ
手に仕込んだ者に喰いっぱぐれなし　技術は身を助く
掌(てのひら)にほくろがある者は金持ちになる　俗説
手は借りても銭ゃ借るな　金銭貸借はトラブルのもと
手前味噌(てめしみそ)　自家製の味噌を誉める　自慢すること
手飯、向こう糞じゃ引き合わぬ　割に合わないこと
出物(おなら)腫れ物処嫌わず〔ひらがな盛衰記〕出たい時に出
出る杭は打たれる〔北条五代記〕優れた者は攻撃の的にされ易
天知る　地知る　人知る　我知る〔後漢書〕　悪事は必ず露見する
　誰も知らないだろうと思っても天地も、自分も知っている
天向いて唾(つば)を吐く〈**天に唾す**〉〔四十二章経〕
　人に害を与えようとして自分に害が及ぶ
天網恢恢疎(てんもうかいかいそ)にして漏らさず　天は粗い網目の様でも悪を逃さな

と行

トージ(焦げ飯)バ息子に喰わすれば出世せん　俗説

道具だてする大工は手ぬるい
　道具のことばかり気にする大工は仕事が捌けない
冬至に南瓜を喰えば風邪ひかん　栄養学
冬至に柚子湯に入れば風邪ひかん　体が暖まる（生活の知恵）
灯台下暗し〈提灯持ちの足下暗し〉
　遠くを照らす灯台の真下は暗い　身近な事情に気付かない
問うは当座の恥 問わぬは末代の恥〔狂言庖丁聟〕
　知らない事を聞くのは恥ではない　知らない方が恥だ
遠い親戚より近くの他人　いざという時は近所が頼み
遠くて近きは男女の仲〔枕草紙〕　男女の仲は結ばれやすい
遠くの音が聞こえるときは雨前　（気象）
道理そこのけ無理が通る〔沖津白波五〕
　〈無理が通れば道理が引っ込む〉　無理も言ってみるものだ
道理を通せば義理が立たず
　無理に義理立てしようとすれば道理に外れることがある
道理百遍 義理一遍
　道理を教えるより義理に絡む話が相手の胸に響く
得取るより名を取れ　金儲けより名誉が大切だ
どこで暮らすも一生　住み良い所で暮らそう
所変われば品変わる　土地が変われば風俗習慣も変わる
年取れば金より我が子　我が子の愛情が深い
年寄りと釘の頭は引っ込むが良い　出過ぎない方が良い
年寄りのいる家に落度はない　老人の知恵と経験
年寄りの物忘れ、若い者の無分別　これが欠点
どじょうが鮎になり【どじょう：同情】【鮎：愛】語呂合
土手を築くなら芝〈竹〉植えろ　崩壊予防（生活の知恵）
隣の銀飯より我が家の麦飯　隣の米飯より我が家の麦飯
隣の麦飯や旨い〈隣の花は赤い〉　人の物はよく見える
鳶が鷹ン子産った〈出藍の誉〉　親より子供が優
鳶が鳴くと晴れ　鳶は予知能力がある（気象）
鳶の高飛びは嵐の前ぶれ　（気象）
土間が湿れば雨　（気象）
富には人が集り 貧乏には親戚も離るる　世の常
とも入り（脇玄関）の家は後絶えになる　俗説
友引きの日の葬式には棺桶に藁人形を入れろ
　死者が友を引き連れると思われた　俗説
土用丑の日に鰻喰えば達者か　鰻は滋養強壮の妙薬
取らぬ狸の皮算用　手に入る前から当てにするな
虎は死して皮を残し 人は死して名を残す〔十訓抄〕
　虎のように人も死後に名声を残せ
とり（鶏）は喰うとも、ドリ（からざ）喰うな　俗説
　※高蛋白で栄養価が高いので食べたが良い
とり（鶏）の夜鳴きは不吉　通常、夜は鳴かない
取ろう取ろうで取られる
　取ってやろうと思うあまりかえって取られてしまう
泥棒は盗ったしこ　泥棒より火事が恐い
泥棒捕まえて縄をなう　準備を怠って、なお無方針
泥棒を捕らえてみれば我が子なり
　意外な事態に窮す　我が子も心許せぬとは悲しい限り

な行

泣いて暮らすも一生笑って暮らすも一生　同じ一生笑って暮ら
無い物ねだり　無いものを欲しがるのが人の常
苗代半作　苗半作　苗代作りも　苗作りも大事な仕事だ（農事）
長い物には巻かれろ〔鷹筑波〕　勝てぬ相手には反抗するな
無か時の辛抱　ある時の倹約　普段から辛抱して倹約に心掛け
長口上は欠伸の種　聞き手を飽かせる
流れ星が消えん内に願い事すれば叶う　俗説
流れる水は腐らず〈使う鍬は錆びず〉　動くものは朽ちない
仲立ちするより逆立ち　仲人は苦労が多い
泣く子と地頭には勝てぬ〔女房形気〕　権力者には従う他ない
無くて七癖　人にはないようでも癖があるもの
情けは人の為ならず　人の情けを受ける事がある
情けよりお酒　【さけ】の掛けことば　同情より実利
情けも過ぎれば仇となる　自費や好意も過ぎれば為にならぬ
なすびもトマトも忌地嫌う　連作障害（農事）
鉈を貸して山を取られる　恩を仇で返される
夏の朝焼け川越えするな　大雨の前兆（気候）
夏の早立(夕立)は馬の背中を分ける（気候）
　夕立の雨はごく狭い地域に集中的に降る
七カ月児は育つが　八カ月児は育たん　八ケ月早産児　俗説
何某よりも金貸し〔一休狂歌問答〕　格式より実利が良い
何事も因縁〈何事も縁〉　世の中のことは全て因縁がある
生兵法は怪我のもと　いい加減な知識はかえって失敗する
訛りは国の手形　ことばで出身地が分かる
なめくじにも角　一寸の虫にも五分の魂
習うは一生　幾つになっても習うことがある　生涯学習
習うより馴れ〔学者気質〕　教わるより慣れれば覚えが早い
　理屈より実践である
ならぬ堪忍　するが堪忍〔養草〕
　もう堪忍できないところを我慢するのが本当の堪忍だ
なる木は花から違う　優れた人は常人とどこかが違う
縄のないだしと歌い出しはこまいがよい　盛り上がりで引き立つ
名をとるより得取れ　名声より利益を得よ
何の肥料より親父の足跡
　作物には肥料も大事だが手入れはもっと大事（農事）

に行

似合うた鍋には似合うた蓋　似合った相手がいるもの
似合うた屁をふれ　力量に合った事をしろ
二階から目薬　思うように行かない
逃がした魚は大きい　無くした物は惜しさが一倍
憎い嫁から可愛い孫が生まれる　嫁は憎いが孫は可愛い
憎まれ子　世にはばかる〔幅をきかす〕〔好色万金丹〕
　憎まれる人がかえって世間で幅をきかす
西が曇れば雨　（気象）
西向きに家建つんな　西日が強い　（生活の知恵）
にっちもさっちもいかん時は憩え

どうにもこうにもならない時は休憩しろ

二度ある事は三度ある　反復傾向がある

二度教えて一度叱れ　徹底して教えて叱るのは一度で良い

二兎追う者は一兎をも得ず

同時に二つの事をすればどちらもうまくいかない

女房と畳は新しい程が良い　新しい間は美しい

女房と味噌は古か程、味がある　円熟する

女房は小屋ン隅から貰え　男の面子が欲しい　俗説

庭造るより田作れ　実利を得よ（農事）

入道雲は雷の前ぶれ　（気象）

人間は実ると仰向き　菩薩は俯く　**（実ほど頭を垂れる稲穂かな**

人は実ると気位が高くなるのを戒めたことば

人間万事塞翁が馬〔淮南子〕

人生の禍福は予測できないものだから禍を悲しむにあたらず

福を喜ぶに足りない　禍を憂えず福を喜ばず

人見て法を説け　相手の人格を見て話せ

ぬ行

糠に釘〈豆腐にかすがい〉　効き目がない

盗人と付き合うても　嘘付きとは付き合うな

嘘つきは全く信用にならない

盗人は盗ったしこ　道楽息子は土台石も残さん

盗人より火事、火事より道楽息子、何も無くしてしまう

塗り箸で素麺　滑って掴めない

濡手に粟　労せず利を得る

ね行

寧者の日暮れ知らず　仕事に夢中で時間を忘れる

猫が面洗えば雨　顔を洗うしぐさをすると雨（気象）

猫が面洗うとき耳の後ろまで手を回せば晴れ　（気象）

猫に死人ば股越えさすんな　猫は魔物

猫はこなせば痩せる　犬はこなせば太る

猫は三年飼うても恩を知らん　犬とは大違い　恩を知らない

猫も跨いで通る　不味い物

猫ン罰は三代たたる　猫は魔物

鼠捕らぬ猫は飼うべからず

寝て喰えば牛になる（行儀作法）

の行

能ある鷹は爪を隠す〔毛吹草〕

実力者は才能を表面に出さないものだ

能書は読めン処も効き目あり

はっきり見えないほうが有難みがあって尊い

能無しの口たたき　才能の無い者が口先達者

軒を貸して母屋取られる　恩を仇で返される

後の百より今五十　即金の効力

喉もと過ぎれば熱さを忘れる〔源氏冷泉節〕

苦しい事も時が経てば忘れてしまう

飲むより吸うが減る　一度に飲むより少しずつ吸う方が減る
暖簾に腕押し　相手にしても張り合いが無い

は行

吐いた唾は飲み込めん　ことばも同じ
這えば立て 立てば歩めの親心　子供の成長を喜ぶ
馬鹿と挟みは使いよう　人使いは上手下手の差がある
馬鹿に付ける薬はない〔閑情末摘花〕　馬鹿を直す方法はない
馬鹿の大食い　貪食を戒める〔行儀作法〕
馬鹿の一つ覚え〈**馬鹿の一念**〉　思い込むと夢中になるのが恐
馬鹿の高笑い〈**馬鹿の白笑い**〉　辺り構わず高笑いする馬鹿
馬鹿の高上がり〈**豚も煽てりゃ木に登る**〉
　能力は無いのに能力以上のことを望む
馬鹿を馬鹿にする大馬鹿者　馬鹿に取り合う方が馬鹿
吐き出したことばは飲みこめん　ことばは慎重に
履物揃えてなか家には、盗人がひゃーる
　几帳面に整理整頓された家は盗人も苦手らしい
履き物は昼から(午後)下すな　朝から準備せよ
禿(はげ)に怪我なし　毛がなし【怪我・毛が】語呂合せ
禿(はげ)に馬鹿なし　額に知恵が宿ると言われる
化けの皮が剥げる　地金が出る
禿(はげ)を三年も気付かん　好き同士なら禿も気付かない
箸は貧乏神の杖　俗語
二十歳過ぎた子に意見　ご意見無用
蜂が家ン中に巣掛くる年は台風が来る
　蜂には台風非難の予知能力があるらしい（気象）
蜂に刺された時は小便し掛けろ
　蜂の毒素を尿のアンモニア成分が中和する
八十八夜の忘れ霜　八十八夜過ぎは霜が降りない（気象）
初物喰えば七十五日は長生きする　俗説
初物は東を向いて食べろ　東の太陽に感謝
鼻くそ丸めて万金丹　薬の原料が不明なことの例え
話上手は聞き上手　話上手は相手の話しもよく聞く人だ
話上手は仕事下手　話してばかりで仕事が捗らない
話は胸で聞け　判じて聞け
話半分 嘘八百　人の話には信憑性が薄い
花好きに悪か人間なおらん　花は心を癒してくれる
歯・目・曼羅(まら)から弱り出し　体の衰退の順序
早い者に上手なし　早かろう悪かろう　仕事は入念に
早起きは三文の得　早起きすると得が多い
早捌けの仕事下手　急いでした仕事は雑である
早飯 早糞 早算用　人に使われる者には大切な特技だ
妊み女に火事見すんな　ほやけ子を生む　俗説
腹立てるより義理たてよ　人には義理をたてるのが肝要
腹八分に医者要らず　八分目程度の食事をしていれば健康
針の穴から世間を覗く　狭い見識で世間を見る
春の三日晴れなし　（気象）

ひ行

火遊びすれば小便しかぶる　子供に火遊びを戒めることば
贔(ひいき)の引き倒し　贔屓し過ぎてかえって相手を不利にする
日陰の恥を日向に曝す　暗闇の恥を明るみに出す
日傘雨傘　月傘日傘　太陽に暈(かさ)があれば雨（気象）
東に井戸　西に便所は鬼門　易学
彼岸過ぎて麦の肥　彼岸過ぎの追肥は効果がない（農事）
彼岸花ン汁がひっ付けば瘡ン出来る　皮膚がかぶれる
低い所に水溜まる　欠陥に向かって攻撃を集中する
飛行機雲がすぐ消えないときは雨前　（気象）
左利きは器用者　俗説
庇(ひさし)貸して母屋取らるる　恩を仇で返す
ひだるさがゴッツォー　腹が減るとまずいものなし
日照りに不作なし
　米作には日照の多い年の方が収穫量が多い（農事）
人が踊る時や踊るもん　人と同調する事も大切だ
人酒を飲む　酒人を飲む〔法華経抄〕
　人は酔えば自制心を失い　酒に飲まれて乱れる
人魂(火の玉)ン出れば身内に不幸がある　俗説
一つ歳上の嫁ごは金のわらじ履いても探せ
　年上女房は遣り繰り上手で福がある
人には添うてみろ　馬には乗ってみろ〔仮名手本忠臣蔵〕
　親くしないと本質は分からない
人の一生はあざなえる縄の如し〔淮南子〕
　人生の禍福は予測できないものだから禍を悲しむにあたらず
　福を喜ぶに足りない　禍を憂えず福を喜ばず
人の過ち　我が幸せ〈**人の不幸、我が幸せ**〉
　人の失敗や不幸を喜ぶ考え方をたしなめる
人の意見四十まで　大の大人に意見はいらない
人の痛みは三年でも我慢できる　同情せず傍観する
人の噂も七十五日　自然に忘れられる
人の縁は合縁奇縁　人の縁は計り知れない不思議なものだ
人の口には戸は立てられぬ〔最明寺百人上臈〕
　防ぎようが無い　おさまるまで待つしかない
人の心は落ち目の時こそ良く判る
　困っている時、恩情掛けてくれる人は尊い
人のことより頭の上の蠅を追え　まず自分の始末が第一
人の午蒡(ごぼう)で法事する　自分だけ虫の良いことをする
人の花は赤こう見ゆる　人の物がよく見える
人の非を謗らず　甲斐なき事を悔やむな
　人を非難したり仕方ないことを悔やむな
人の振見て我が振直せ〈**我が癖直せ**〉〔都気質〕
　人の行為を反省の材料にして　自分の行為を正せ
人の　褌(ふんどし)で相撲とる〈**人の午蒡(ごぼう)で法事する**〉
　自分だけ虫の良いことをする
人の周りは回んな　葬式で回る（行儀作法）
人の物は自分の物自分の物は宝物　貪欲を戒める
人の悪きは我が悪きなり　原因は我にあり
人は一代　名は末代〈**身は一代―**〉

人は死ねば終り　名誉を重んじ　後世に名を残せ

人は泥棒　明日は雨と思え　先ず疑って用心せよ

人は人中　田は田ン中　人は他人に揉まれるが良い

人は満ち潮に産まれ、引潮に死ぬ　俗説

人を見て法を解け　人柄に応じた処置をせよ

人を以って鏡となす〈**人の振り見て我が振り直す**〉

一人口〈**一人扶持**〉**は食えぬが二人口は食える**

一人暮しは無駄が多いが結婚すれば経済的に暮らせる

一人自慢の褒め手なし　自慢はせぬがよい

一人旅はするとも三人づれで旅するな

三人いれば意見をまとめるのに遠慮や苦労がある

火に油注す　災いを更に拡大させる

火の気の無い処から煙りは立たぬ〔耳談続纂〕

全く事実がなければ噂はたたない

百姓百品　百姓は色々な品を栽培する〈農事〉

百姓百増倍　薬九増倍　魚三増倍　坊主丸儲　按摩(あんま)**掴み取**

利が多い職種

百万長者も一銭から　金は中々貯まらないものだ

百聞は一見にしかず〔漢書〕　百回聞くより一度見たことは確

②聞いたことは正確ではない

百里の道も一歩から　どんな大事業も第一歩が大事

冷酒と親の意見は後で利く　後で思い当たることがある

ひゆうじ〈**不精者**〉**の一時働き**　不精者は根気がない

ひゆうじの隣働き　隣の加勢にはご馳走が出る

ひゆうじの節句働き〈**ひゆうじの盆働き**〉〈農事〉

祝祭日は仕事を休むのに不精者が働くことを嘲って言う

病気見舞いに鉢物は遣るな　【根付く・寝付く】

昼から履物は下ろすな　俗説

昼の茶柱は災難に逢う　俗説

貧乏に恐いものなし　失うものが無ければ気楽なもの

貧乏人に苦労はない

貧乏人の子沢山　必要以上に子供が多い

貧乏花好き　境遇と不釣合い

貧乏暇なし〔世話尽〕　生活に追われ時間の余裕がない

ふ行

夫婦喧嘩は犬も喰わん

内輪の一時的事だから他人の仲裁は愚かな事だ

夫婦喧嘩は一晩寝ればなおる　なぜか直る

夫婦の愛は連れるほど深まる〈**偕老同穴**〉

長い夫婦生活で理解が深まる

夫婦は二世　夫婦の関係は来世まで続くほど深い

夫婦は連れるほどに似てくる〈**似たもの夫婦**〉

長く夫婦生活を続ける内に性行が似かよってくる

夫婦は持ち合い凭れ合い　持ちつ持たれつ

覆水盆に返らず〔拾遺記〕　取り返しがつかない

服装の乱れは心の乱れ　心は服装にも表われる

河豚(ふぐ)**は食いたし命は惜しし**　望みと結果が両立しない

河豚に当たったら泥中に首まで埋めろ

土には毒素を排出する作用があるのか

服装は人格を表わす　人は外観や印象で判断する（礼節）

ふちゃぁ(額)の広か者な頭ン良か　知恵は額に宿る

父母の恩は山より高く海より深し　父母の恩は広大である

冬の一つ雷は虫脅し　春の訪れ（気象）

へ行

屁糞かずらも花盛り〈鬼も十八〉

どんな花でも盛りの頃は美しい〈**鬼にも盛りがある**〉

へそのごまをくじれば腹がせく　腹痛

下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる　まぐれ当りもある

下手の考え休むに似たり　良い考えが浮かばず時間の無駄

下手の長糸　裁縫で長糸は能率が悪い

下手の長談議　長話しは聞く人が退屈する

下手の横好き　下手な癖に何にでも興味を示す

蛇が出ると雨（気象）

蛇が道を横切れば金が入る　縁起担ぎ

蛇に噛まれて　朽ち縄に怖じくる

恐かった経験に懲りて必要以上の用心をする

蛇の抜け殻バ財布に入れとけば銭に不自由せん　俗説

蛇の夢をみれば銭が入ってくる　俗説

蛇を早く見る年は酷暑になる（気象）

屁と火事は元から騒ぐ　張本人が最初に騒ぐ

屁放り出しゃ嗅み出し　本人が真っ先に匂う

屁は肛門の欠伸なり　非礼を笑い飛ばす

屁は人の笑い種

便所掃除すれば美人の子を産つ（家庭教育）

ほ行

坊主丸儲け　元手いらずで丸々儲けになる

菩薩俯く　内容が充実している人は謙虚である

菩薩面の内心夜叉〈顔に似ぬ心の内〉

優しい顔をしていても人の内心は判らない

菩薩は実が入れば俯き　人は実が入れば上向く〈菩薩俯く〉

虚勢張る者を戒めることば

星が瞬くと時化る（気象）

星空の翌日は晴れ（気象）

保障人と馬ン尻には立つな　危ない危ない

臍を噛む　自分のヘソは噛めない　後悔する例え〔左伝　荘候

仏放っとけ　神構うな〈さわらぬ神に祟りなし〉

神仏にはあまり深入りしないが良い

仏の顔も三度

何度も慈悲に背けばどんなに柔和な者も仕舞いには怒る

施しは買うてでンしとけ　できる施しは進んでせよ

骨折り損のくたびれ儲け〈しんどう損の―〉

苦心しても疲れるだけで効果がない

誉められて腹立てる者なし　誰しも甘言は快いもの

誉められて油断するな　お世辞を使う者には警戒せよ

惚れた目にはあばたもえくぼ
惚れた相手の欠点は見えなくなるもの
惚れて通えば千里も一里
好きな人の所へ行くのは遠くても厭わない
本貸す馬鹿 返す馬鹿 貸した本はなかなか返らない
盆の十六日は地獄の釜の蓋もあく〔新永代蔵〕
地獄も休みだからこの世も休みにしよう

ま行

まいぎり(つむじ)が真ん中にある者ナ利口者 俗説
蒔かぬ種は生えぬ〔毛吹草〕 何もしないで報いは得られない
馬子にも衣裳 身なり次第でそれとなく良く見えるもの
まさかの真っ逆様 予期せぬ災難
まさかの時の友人
窮地の時に救いの手を差し伸べてくれるのが真の友
間違いと気違いは何処にもある 間違いはあるものだ
眉毛の長か者ナ長生きする 俗説
眉と眉の間が離れとる者ナ親の縁が薄か 俗説
丸い卵も切りようじゃ四角 モノも言い様じゃ角が立つ
話は受け取り方によって違う 言い方が悪いと角が立つ

み行

身内泣き寄り他人は喰い寄り
身内の者は不幸に際して集まるが他人は飲食が目的
見栄張るより頬張れ〈義理張るより頬張れ〉
世間体より内輪を能よくせよ
味方みびいき 味方はひいきするもの
身から出た錆び 〈因果応報〉
悪い結果は自分自身が原因を作っている場合がある
味方みびいき ひいきが味方する
蜜柑折る馬鹿 柿折らん馬鹿
蜜柑は枝を折ると翌年の実付きが悪いが柿は折るがよい
蜜柑が色づきゃ医者が青ぅなる〈柿が熟るれば―〉
晩秋は健康な季節で病人が少ない
見ざる聞かざる言わざる
何事も見ず聞かず言わないほうが身の安全
見たら見流せ 聞いたら聞き流せ
見聞きした事はいちいち人に喋るな
満つれば欠ける世の習い
水の中に湯を入るんな 敷き水＝死期水は湯灌に使う
水の流れにゃ竿は立たん 流れには逆らわないがよい
水呑百姓もドン百姓も泥喰ちゃおらん
百姓の規模の大小はあっても食べていけないことはない
巳年生れの家には燕(つばめ)ン巣は掛けん 【巳・蛇】
蛇が鳥を飲み込むことから
実になる木は端(はな)(花)から違う 【端・花】
結実花は最初から立派、偉くなる人は子供時代から違う
巳の日にゃ灸すゆんな 身を焼く 【巳・身】語呂合せ
実るほど頭の垂れる稲穂かな〈菩薩俯く〉

稲穂は実れば頭を垂れる〈**菩薩は実が入れば俯く**〉

〈**人間は実が入れば仰向く**〉虚勢張る者を戒めることば

三日乞食すれば止められん　悪い習慣は直りにくい

三つ子の魂百まで〈**三つ子の心八十まで**〉

幼児期の性質は歳取っても変わらない（幼児教育）

耳たぶの太か者な金持ちになる　福耳

見目より心　外見より中身

見ると聞くとは大違い　聞いた話は当てにならない

見れば目の毒　聞けば気の毒

見れば欲望が沸いて苦しむ　聞けば煩悩が生じて苦しむ

みんぞ（みみず）に小便し掛くれば珍宝が腫る　俗説

む行

昔とった杵柄（きねづか）　昔鍛えた腕前

百足に噛まれた時は甘茶ば付けろ　解毒作用

麦は踏まれて強うなる　人には逆境に耐える力が有る

麦飯喰うて脚気知らず　栄養学上よい（生活の知恵）

無常の風は時を選ばず

人の死は何時やってくるか分からない

息子は他人でも意見するが娘にゃ親が仕込め

娘には嫁入り前に親がちゃんと躾をしろ

娘三人持てば身代つぶす

嫁入り支度のために財産がなくなる

娘見たけりゃ母親見ろ　母親の人柄を見れば見当が付く

娘ン子は団子こぬるごてこなせ　娘は良く仕込め

鞭当てん子は育て損なう　子弟の教育は厳格に

無用の用〔荘子〕

無用とされているものがかえって重要な場合がある

無理も五十まで　次第に体力が衰える

無理を通せば道理が引っ込む〈**無理も通れば道理になる**〉

世の中には道理に合わない事が罷り通る事も良くある

め行

名人は人を謗（そし）**らず**〔毛吹草〕　短所を言わない

名物にうまいもの無し〈**名所に見所無し**〉

名は必ずしも実を伴わないことがある

飯喰うてじき寝れば牛になる（行儀作法）

目は口ほどにものを言う

目許には感情が表われやすく心の動きが察知できる

目は心の鑑（かがみ）〔孟子〕〈**目は心の窓**〉　目で心の正邪が知れる

めんどり（雌鶏）が歌えば家亡ぶ　雌鶏は歌わない

めんどり（雌鶏）に突かれて時を告げる

夫が妻の意見に動かされる

も行

餅は餅屋　専門家に任せろ

持つべきは子供　我が子なればこそ尽してくれる

持つべきは友達　友達は腹蔵なく相談もできる

持てば持つほど持ちたがる　欲望には限りがない
物知りの家は草がはびこる
　勉学にふける余り、家事を疎かにしがちだ
ものは言い残せシャー(おかず)は喰い残せ　過言を戒める
ものは言いよう話しは聞きよう　言いよう聞きようで違う
ものも言いようで角が立つ　言い方が悪ければ角が立つ
物持ちの良か者は働き出す　倹約節約は富に通ず
物は無かよりまし　道具はあったほうが便利
桃栗三年柿八年〔愛護若塘箱〕
　桃と栗は植えて三年柿は八年で実を結ぶ（生活の知恵）
貰い物で義理済ます〈**人の牛蒡で法事する**〉
　自分が負担をしない貰い物で交際を済ます
貰い物に苦情　人は勝手なものだ
門前の小僧習わぬ経を読む　環境が人を育てる

や行

野菜湯掻きを男に見すんな　野菜は湯掻くと極端に減る
火傷には馬の油バ付けろ〈**―カタシの油**〉（生活の知恵）
焼け野の雉（きぎす）
　雉は抱卵期に火事になっても巣を離れないで子を守る
屋敷内に梅を植えれば呻き(梅)声を聞く【呻き・梅木】
屋敷内に竹(哮(たけ)る)は植ゆんな【竹・哮る】語呂合せ
屋敷内に枇杷(悲話)は植ゆんな【枇杷・悲話】語呂合せ
安物買いの銭失い　品質が良くないので結果的には損だ
痩せ馬の多喰い　痩せた馬は案外大食である
柳に風折れなし　逆らわないので被害がない
病は気から　気の持ちようで重くもなり、軽くもなる
病は治るが癖は治らぬ　悪い癖は矯正が困難だ
闇夜の烏　雪に白鷺〈**闇夜の牛**〉判別できない
病め医者　死ね坊主
　医者は人の病気を願い、坊主は人の死を願う
やり枡小(ましょう)、とり枡大(ますたい)【枡】のことば遊び
　やる時は少なく、取る時は多く

ゆ行

夕立は馬の背中を分けて降る　局地的な雨（気象）
夕虹は星晴れ　後には晴れる（気象）
夕焼け雲が黄色に焼けると台風の前ぶれ（気象）
夕焼けン時ゃ鎌研げ　明日は晴れる（気象）
ゆとりあっての信心
　衣食足りて心にゆとりが出来るまでは信心どころではない
指の長ンか者な器用か　俗説
夢みの悪か時は用心せろ

よ行

夜遊び太郎の朝寝坊
酔喰らいに怪我なし　体が柔軟で、比較的に怪我が少ない
酔醒めの水は甘露の味　酔い醒めの水は実に美味しい

養子が三代続けば蔵ン建つ　養子は良く働く
欲どんの加勢さす　欲につられて仕事が捌ける
夜声八町　夜は声が遠くまで聞こえる（作法）
汚れて稼いで奇麗に使え　苦労して得た金は有効に使え
余所の家に上ったら先ず仏壇にまいれ（作法）
余所の麦飯は旨か　他所のものは良く見えるもの
余所の嫁ごが良く見える
世は持ち回り　人の番がやがて自分にも回ってくる
嫁が姑に成り上がり　嫁が姑似なる日は近い
嫁が姑の後を継ぐ　家風は受け継がれていく
嫁ごは小屋ン隅から貰え　男性優位思想　俗説
嫁ごと反物は昼見て貰え　失敗がない
嫁ご貰いは母じょ見て貰え　母を見れば人格が判る
嫁ご貰いは親貰い　親の人格が判る
嫁と猫は近所から貰うな　すぐに帰りたがる
嫁の三日誉め　姑は当座だけは誉めもする
嫁は姑に似る　姑の性格に感化される
横座に座る者ナ坊主と猫と馬鹿ばかり　特等席
横座に火が吹けば金が入る　良い事がある　俗説
世の中に死ぬ程楽は無いものを何処の阿呆が生きて働く
苦労して生きるより死んだほうがどれだけ楽か知れない
夜に口笛吹けば魔物が寄ってくる　俗説
夜にこぶ(蜘蛛)は殺すな　【夜こぶ】と【喜ぶ】の語呂合わせ
夜に爪切れば親ン死目に会わん　不衛生　俗説
夜の鶴　親鶴は夜もまんじりともせず一心に幼鳥を庇護する
夜道歩く時ゃ生臭物と油揚げは持つな　魔物に狙われる
弱り目に祟り目　不運が重なる
四十にして惑わず〔論語〕　四十歳になって迷いが無くなった

ら行

来年の百より暮れの五十〈**明日の百より今日の五十**〉
先のことより少なくても確実性のある方が良い
楽は苦の種　苦は楽の種　将来楽するための苦労
らっきょう喰うて口を拭う　知らぬ振りする

り・る・れ行

李下に冠を正さず〔古詩源　君子行〕　李の木下で帽子を被る
疑われるような行為をしない為の戒め
理屈上手の行ない下手　言行不一致
理屈商人の儲け下手　商人には理屈は不要
理屈と膏薬はどこでんひっつく　理屈はつけやすい
利口烏が水田に子をもつ　知った振りして失敗する
律儀者の子沢山　真面目一方な男に限って子供が多い
理に勝って非に負ける
理屈で勝っても実際負けたも同じ結果になる
両方立てれば身が立たん〈**あちら立てればこち立たず**〉
両方を立てることは困難だ　自分まで駄目にする
両方(頬)良いのは頬被り
どちらも良いことは少ない、頬被りだけ

料理人は包丁一本あれば食わるる　商売道具

良薬は口に苦し〔孔子家語〕　良く利く薬は苦い

利を取るより費を省け〈**儲けるより倹約**〉

類は友を呼ぶ　同じ趣味を持った者同士が友達になる

礼儀は下から慈悲は上から

下の者は礼儀を厚く　上の者は慈悲心を厚くせよ

ろ行

労して功なし〔荘子〕〈**骨折り損**〉〈**しんどうが利**〉

苦労した割には利がない

蝋燭（ろうそく）**は我が身を減らして人を照らす**

自分を犠牲にしても人の為に尽くす

六根清浄　一根不浄

六根（眼耳鼻舌身意）は清浄を保てるが色欲は押さえ難し

論に負けても理に勝て　議論では負かされても道理を貫け

わ行

若い時の苦労は乞うてでもせよ　若い時の苦労は人生の糧

我が糞は臭ぅなか〈**我が息は臭ぅなか**〉

自分の欠点は気付かないもの

若白髪は出世する　俗説

我身つねって人の痛さを知れ

自分の苦痛に置き換えて人の苦しみを思い遣れ

我身立てたければ先ず人を立てろ

目的達成したければ自分のことより譲る気持ちが大切だ

我が家の銀飯より隣の麦飯

他所のものは良く見えるもの

別れた女に焼き餅　情はあるもの

ワサモン好きはのさりもん　早生モン喰い

災いは口から出て病は口から入る〈**口は災のもと**〉

病は食べ物から生じ 災はことばによる。口を慎め

災いも三年経てば福の種〈**災転じて福となす**〉

技は身を助く　技術を身に付けておけば役立つ

忘れてならぬは師の恩・親の恩・先祖の恩

人は恩を忘れてはならぬ

渡る世間に鬼はない　世の中は悪い人ばかりではない

若っか時の苦労は買うてでもせろ

元気な時は苦労しても体に障ることはない。世の為尽くせ

笑う門には福来る〔好色万金丹〕　和やかな家庭には福が来る

藁苞（わらづと）**に黄金**　外見より中身が優れている

笑って暮らすも一生、泣いて暮らすも一生

愉快に暮らさなければ損だ

割れ鍋（なべ）**にとじ蓋**　どんな人間にもそれ相当の相手はあるもの

和を以って尊きと為す　何事も和やかに事を進めよ

〔日本書紀　聖徳太子〕